



指導主事だより

なんだかうれしい

教育委員会

相談時間等 月・水・金曜日

●立科小学校/午前9時～午前11時30分

電話0267-56-3131 (呼)

●立科中学校/午後2時～午後5時

電話0267-56-1076 (呼)

●立科町児童館/

午前11時50分～午後1時40分

電話0267-56-0303 (直通)

(担当 指導主事 中島一彦)

1枚の新聞の背景にある10枚の取材メモ



長野県新聞コンクールに立科小学校四年生重田理風菜さんの作品が入賞を果たしました。理風菜さんは毎年、この新聞コンクールに挑戦してくれています。受賞後、廊下に展示された理風菜さんの新聞を見せてもらいました。

そこに添えられた10枚のA4にまとめられた取材メモの多さに驚かされました。1枚の新聞の背景に、積み重ねられた文献研究や取材活動が見えてきました。

「ようこそ立科へ」「道の駅はみんなをつなぐ輪」と素敵なタイトルが目を引きまします。理風菜さんが、この学習を通して、結論付けた事柄を端的に表現してくれたものです。道の駅で働く人たちの思い、そこを訪れる人々が感じる事、そこに並ぶ様々な立科由来の野菜やお米やリンゴ。「その商品の数々に関わる人々の気持ちって、どんなものなのだろう?」そんな思いをめぐらしながら、自分の問いを形作っていく理風菜さん。こうした時間を過ごすことに、学ぶ喜びがあり、自分を形作る実感のようなものを育てている・・・そうも思われるのです。更にその問いから、「その場に行ってみよう」気持ち動き出しています。

理風菜さんは、「道の駅」に足を運び続けます。観光案内所に入り、併設されているトイレに飾られた花に感動した気持ちも教えてくれました。実際に足を運ぶことで、その花から飾ってくださる人の心を感じていくのです。様々な商品に込められた人々の思いが見えてきた理風菜さんだからこそ感じられた花を飾る人の心根。「知っていること」が本当に「分かってくる」ようになっていった経緯も見えてきます。

四年生の女の子が学ぼうとする意志と課題を持ち、その課題の解決に持続的に取り組んでいく姿の素晴らしさ。今までの自分を超越して、新しい世界を発見し、新しい自分にも出会い、学びへの意欲を高めています。学ぶことの本質が垣間見えるのです。文末に「リニューアルした道の駅にしてみたい。立科の魅力を発見したい」そう綴る理風菜さん。探究は続きます。



10枚の取材メモ。A4用紙にまとめられています。

長野県新聞コンクールに立科町からは、7人の子どもたちが挑戦してくれました。どの子も、課題を決め、自分なりの解決の道筋を探

取材メモの文字が薄くて、見えづらいですがご理解ください。

しながら長期に渡って探究し続けてきていました。自ら問いをつかみ、解決の道筋を考え、自らの力で解決に向かっていく。

学び続ける立科の子どもたち。みんなすごいよ!